

高濱先生の対談連載がリニューアル!
第1回のゲストは、プロサッカー選手の香川
真司さん。日本中が沸いたロシアワールドカッ
プでの活躍は記憶に新しいところです。みん
ながあこがれ、香川選手はどんな子ども時代
を過ごしてきたのでしょうか?

新連載
01 花まる学習会代表 高濱正伸の

花まるTALK

ゲスト

香川 真司さん

プロサッカー選手



中高時代に学んだことが サッカー選手として、人間としての 今の自分の基礎になっています

(香川)

小4のとき、勇気を出して
父に伝えたこと

高濱 香川さんは、小さいころからサッカーフィーダーでした。

香川 4歳のときにJリーグが華々しく開幕したことによって、その後、地元のサッカーチームに入りましたけど、ふだんはずっと外で遊んでいました。マンション育ちですが、前が公園だったので、鬼ごっこや缶切りやブランコ。サッカーだけ

でなく、野球やバスケもやりましたよ。
高濱 それを聞くと、都会に住んでいるお母さんたちがホッとしますよ。

香川 子どもはどこでも遊べますから。ほかに習い事はしていたんですね。

高濱 お母さんたちがホッとしますよ。

香川 水泳と習字も習っていました。でも

高濱 よくサボつたなあ。とにかくサッカーが

香川 楽しくて楽しくて、ハマつてしまつて。

高濱 小さいころにトコトン夢中になれるものを見つけられたのは幸せでしたね。

香川 お姉さんがいるんだ。一姫二太郎ですね。いくつ離れているの?

高濱 二つ違います。だからリアルにさ

香川 びしかったんじゃないかな。姉は両親と

高濱 口をきかない時期もあったんですけど、僕

香川 してくれていて、ワールドカップも家族

高濱 そろって来てくれました。

香川 お父さんは、どうでしたか。

高濱 父が一番熱心でした。力入りすぎ

香川 お父さんは、どうでしたか。

高濱 お父さんは、どうでしたか。

高濱 よく言えたよ、ちゃんと伝えられ

る子とそうでない子がいるから。……で、

お父さんは、なんて?

中学時代は祖母と2人暮らし。誕生日には祖母が手作りのケーキで祝ってくれた



小学生時代は、地元神戸のサッカーチームに所属。チームが勝つことはもちろん、ドリブルで何人も抜くことが快感だった





夢を持ち続ければ
そのための努力を怠らなければ
絶対にチャンスはやつてきます

(香川)

香川 地元の信頼しているコーチから仙台のクラブに行つてみないかと勧められたんです。試しに小5の冬休みに2週間行つてみたら、帰りたくない!と思うほど楽しくて。絶対にここでサッカーをやるうと思って、仙台の市立中学に入学したんです。両親はさびしかったかもしれないけど、何も言わず許してくれました。

高濱 所属したチームは、「FCみやぎバルセロナジュニアユース」というでしたね。

香川 はい、地元の強豪校のサッカー部でもなければ、Jリーグの育成機関でもない、地域クラブです。僕らの練習場所はボコボコのグラウンドだったけど、そこから見えるJリーグの練習場は芝生が美しかったことをよく覚えています。だから僕は、エリートというよりも雑草魂を持った人間なんですよ。もともと負けず嫌いだったけど、ここでさらにメンタルを徹底的に鍛えられました。

高濱 どういうクラブだったんですか。当時は、個性を伸ばすことに重き

香川 西日本豪雨災害チャリティーアイベントで子どもたちとプレー

西日本豪雨災害チャリティーアイベントで子どもたちとプレー

去る7月21日、ヤンマースタジアム長居でチャリティーアイベント「#ShinjiDream Special in Osaka」が開催されました。3千人のファンと交流しながら、約100名の小学生たちを対象にサッカークリニック等を実施。「被災地に少しでも協力できてよかったです。子どもたちからも元気をもらいました」と香川選手。一緒に写真を撮るときはペットボトルの水を子どもたちにかけて笑い合うファンサービスも。「子どもが大好き」という香川選手ならではの温かい雰囲気満載のイベントは、子どもたちにとっても一生の思い出となつた様子でした。

を置いてましたね。ゲーム形式を繰り返して、好きなプレーをどんどんしろって。

そして生活面では、挨拶をきちんとすること、感謝の気持ちを忘れないこと、仲間を思いやることなどを、それは厳しく指導されました。

高濱 ホームシックにはならなかつた?

香川 中学時代はおばあちゃんが仙台に来てくれてました。思春期だったからケンカもよくしたけど(笑)。おばあちゃんにいるんだから感謝しなさいとよく言われました。高校も宮城に残りたいから、学費の高い私立ではなく公立に行かなくては!と、中3の12月ごろから必死で勉強しましたよ。とにかくここでサッカーがしたい、ユースに残りたいと。

高濱 ちなみに勉強はできたんですけど?

香川 オール2でした。定期テストのときは、徹夜で勉強したんだけどなあ。

高濱 え、体育も2?

香川 あ、体育は4(笑)。だけどサッカーは、そもそもエリートだからプロになれるという世界ではないです。そんなわざりやすいものではない。



香川選手とポスターを作りました!

今回、香川選手の撮り下ろしの写真をポスターにしました! 勉強やスポーツで頑張っているキミに香川選手からのエールを送ります!

対談で語っていた「夢はでっかく持つて」との香川選手の言葉が聞こえてきそう

右の香川選手のサイン入り色紙を3名の方にプレゼント! 詳しくは130ページを見てね!



思春期は親ではなく「外の師匠」が育てくれる。どのような師の下に送り込むかが、親の重要な役割なのだと痛感させられた。

家族の深い愛情が、一度もあきらめず「いつか追いついてやる」と思った自己効力感の土台になつたのは間違いない。最も特徴的なのは思春期の育ちだ。12歳から、親元を離れて宮城に行くのだが、それがJリーグの下部とかではなく地域クラブ。選んだ理由が「監督やコーチの方針が気に入ったから」。そこで徹底的に「個の力」を磨くことに専念させてもらえたことが、彼の傑出した技量を育てた。

挨拶やまわりへの感謝の気持ちなども学んだという。思春期は親ではなく「外の師匠」が育してくれる。どうかが、親の重要な役割なのだと痛感させられた。

対談を終えて
「決してエリートでない
青年を成長させたもの



香川選手アーカイブ



2018年ロシアワールドカップで日本は決勝トーナメントまで進み、香川選手は3試合に出場。初戦のコロンビア戦では鮮やかなPKを決めた



21歳でドイツ・ドルトムントに移籍。2011年1月には国際サッカー連盟(FIFA)が発表した「2011年期待の若手13人」の1人に選ばれた



高校2年でJ1のセレッソ大阪と契約。当時所属していたFCみやぎの日下昇代表(左)とセレッソ大阪の西村昭宏GM(右)に囲まれて